



Title	市民参加型ワークショップ「新しい医療と、暮らし～再生医療のあるべき未来像～」の記録
Author(s)	公共圏における科学技術・教育研究拠点
Citation	市民参加型ワークショップ「新しい医療と、暮らし～再生医療のあるべき未来像～」の記録. 2020, p. none
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/89258
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

大阪大学 STIPS のつくる「対話の場」

大阪大学 STIPS では、社会への導入に向けて研究・開発が進められている科学技術のテーマに、一般の人々が集まる対話の場づくりをしています。

生体認証やビッグデータ、人工知能、自動運転、再生医療などの「萌芽的技術」はこれからの私たちの生活や社会を劇的に変えていく可能性を秘めているにも関わらず、普段の生活の中では、そのことについて、改めて向き合って考えたり、語り合ったりする機会はあまりありません。大阪大学 STIPS が実施する「対話の場」は、何か一つの正解に導く場ではありません。それぞれの人が、自分なりの動機で参加し、安心して、自分の考えを話すことができるようにするにはどうすればよいか、検討を重ねながら「対話の場」をつくっています。

※ STIPS と一緒にワークショップを開催してみたい！という方は、STIPS ウェブサイト (<http://stips.jp>) 内のお問い合わせフォームよりご連絡ください。

対話の場では、1人で考えているときには思いもよらなかった意見に出会うことがあるかもしれません。これまで技術について自分が持っていた断片的な知識が、新たな知識と結びつき、より俯瞰的な視点を持つことができるようになるかもしれません。技術の導入に対して何の懸念もなかったのに、もやもやとした気持ちが生じてくるかもしれませんし、逆に些細なことに思えてくるかもしれません。

対話の場に参加することの意義は、参加者の1人ひとりにとって異なります。多様な人々が科学技術に対して語り、そこから生み出された多様な意見が科学技術に携わる人にもフィードバックされるような、そして、全ての人が科学技術に対して思考停止することなく、安心して意見を述べる場をつくっていきたく考えています。

大阪大学 STIPS が実施する「対話の場」の特徴

その①

オリジナル対話ツールの開発

対話のテーマとして取り上げる科学技術に関して、適切な情報提供を行うことはとても大切です。特に詳しい人ではなくても、その科学技術が社会に及ぼす影響についての対話をスムーズに始めることができるように、オリジナルの情報提供資料「対話ツール」を作成しています。



その②

学生によるファシリテーション

科学技術と社会のつながりについて学んでいる学生がグループファシリテータとして参加し、参加者同士の対話をサポートします。学生にとっても、価値観や意見の多様性を学ぶことができる、そして、自らの専門性を振り返ることができる、よい機会になっています。



その③

専門家の参加

テーマとして取り上げる分野に詳しい専門家をゲストとして招いています。その場に出てきた疑問にお答えいただいたり、参加者とは違った視点を提供いただいたりしています。



ワークショップで使用した対話ツール

ワークショップで使用した対話ツール

企画・制作：八木絵香、水町衣里 監修：八代嘉美、橋本隆馬 デザイン・イラスト：アトリエ・カプリス

もっと聴きたい！
話してみたい！
参加したい！
そう思ったあなたへ

STIPS は、再生医療だけでなく、宇宙政策や自動運転など、さまざまなテーマで市民参加型ワークショップを開催しております。ワークショップに参加してみたい、という方は、特設サイト「ちがってみえるメガネ」をご覧ください。

<https://chigamega.net>

Chigamega

ちがってみえるメガネ

市民参加型ワークショップ「新しい医療と、暮らし～再生医療のあるべき未来像～」の記録

再生医療の これからの 話し合いについて。



iPS細胞を利用した「再生医療」が、いよいよ現実味を帯びてきました。メディアで取り上げられるにつれ、さまざまな期待が高まっています。しかし一方で、倫理観、宗教観、人としての尊厳などの観点から、慎重な意見も。

「再生医療」は私たちの暮らしをどのように変えるのでしょうか？

ちょっと先の未来について、一緒に考えてみませんか？

この技術に期待することは、不安なことは？

実現に向けて、何を大切にすべき？



Workshop Report

新しい医療と、暮らし ～再生医療のあるべき未来像～

日時：2019年7月13日(土)
13:30～16:30

場所：UMEDA 大阪・梅田会議室 UMEDA-05

進行：八木 絵香
(大阪大学 CO デザインセンター 准教授)

専門家：
八代 嘉美
(神奈川県立保健福祉大学
イノベーション政策研究センター 教授)
標葉 隆馬
(成城大学文芸学部 准教授)

主催：公共圏における科学技術・教育研究拠点 (STIPS)
共催：大阪大学 CO デザインセンター
後援：日本再生医療学会、大阪大学 21 世紀懐徳堂

*このワークショップは、日本学術振興会 課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業(領域開拓プログラム)「RRIの新展開のための理論的・実践的研究-教育・評価・政治性に注目して(研究代表者：標葉隆馬)」の支援のもと開催しました。

みる

ワークショップ趣旨説明

全体進行の八木絵香准教授より、ワークショップの趣旨やこの日の進め方について説明がありました。



再生医療についての情報提供

対話ツールを使いながら再生医療に関する情報(どのような応用の可能性があるのか、どのような懸念が考えられるのか、など)を紹介しました。



語る

アイスブレイク

「再生医療ときいて、パツと思いついたコトは?」とかかれたワークシートを使いながら、グループ内での自己紹介を行いました。各グループに大阪大学の学生1~2名がグループファシリテータとして加わり、対話をサポートしました。



グループ対話 1

Q1 再生医療に期待すること、不安なことは?

Q1について、それぞれの考えをワークシートに記入してもらい、お互いの考えを共有しながら、グループでの対話を進めました。



議論の内容を共有

グループファシリテータが、話し合ったことをまとめて発表し、会場全体で共有しました。

みる

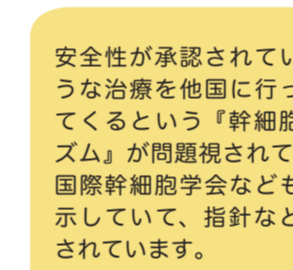
専門家からのコメント

会場から出てきたさまざまな疑問に対し、再生医療に関わるお二人の専門家から情報提供がありました。



八代 嘉美さん

専門は幹細胞生物学、科学技術社会論。幹細胞研究および再生医療に関する社会受容の形成やコスト面などの社会実装に関する研究を行う。



標葉 隆馬さん

専門は、科学社会学、科学技術社会論、科学技術政策。生命科学と社会、遺伝子組換えや幹細胞を巡る議論、メディア言論動向分析、科学技術イノベーション政策のための科学、東日本大震災を巡る構造的課題などに関わる研究を行う。

グループ対話 2

Q2 再生医療を進めるにあたり何を大切にすればよいでしょう?

ワークショップの前半で話したこと、専門家から得た情報などを踏まえつつ、Q2について、それぞれの考えをワークシートに記入してもらい、お互いの考えを共有しながら、グループでの対話を進めました。



議論の内容を共有

グループで話した内容を全体で共有しました。



ふりかえる

ワークシート & アンケートへの記入
参加者のみなさんには最後に、ワークショップでの議論の内容を踏まえて、一言ずつお寄せいただきました。(下段に一部掲載)



グループでの振り返り

ワークシートやアンケートの記入が終わったグループから、振り返りを行いました。



専門家のお二人からのコメント

ここまでのグループ対話で出てきた多様な内容を受けて、専門家のお二人からは、「再生医療がどうあるべきか」ということを考えようと思うと、それは医療だけではなく社会全体のしくみ(社会、経済、福祉など)とセットで考えなければなりません。また、「老いとは何か」という問いについても、今までとは異なるビジョンが必要になってくるのかもしれない」と、「再生医療」を考えていく上での新たな枠組みや、違う角度からの視点をいただきました。



情報の差もなくなったように、技術だけに目を向けるのではなく、心のケアも注視してほしい。AIセルとレキは適切な使用。

技術は、人々の進歩の妨げ。不安の解消とレキの活用。

立ち止まって考えたい

医療の進歩は大変良いと思いますが、ワークショップを通して再生医療の抱える問題点を知ることができた。問題を解決しないまま進むと異なる問題が発生する可能性がある。一度問題を解決するために立ち止まる事は必要

倫理問題

死を選ぶ権利

個人の研究が進むのは歓迎だが、国産発端に使用するのは違和感。死を選ぶ自由は? 治療が一般的に必要か? 倫理問題。

人類が QOL を求めるのは当然だが、AI 社会も進んでいく。倫理問題(2つある意味として)

人類の増加により絶滅する生物が増える。生物は増えるが、地球の全生物に与える影響は? 地球の全生物に与える影響は? 倫理問題。

国民への教育と情報提供

再生医療における知識の普及について、進んでいる部分が多い。国民の認知が向上している。国民の認知が向上している。国民の認知が向上している。

多様な倫理問題が次々と発生している。医学・技術の進歩に追いついていない。倫理問題が次々と発生している。倫理問題が次々と発生している。

研究者のモラルを信じたい

再生医療の可能性をできるだけ早く知りたい。各病種について適切な治療可能なか。

法整備、国民に対する教育プログラムの取組が、今後の研究に必要。倫理問題の議論は重要。

治療を誰もが選択できる価格に

技術はどんどん進歩していき、しかし、現状では法整備も社会的合意も不十分。倫理問題。

再生医療も山中先生が指摘されている「保険適用医療」とする場合には、現行保険制度(省)の上で再生医療保険も追加。2階建てで進めるべきではないか。

技術進歩に期待!

将来に希望が持てました。今後 1313 と関連分野も発展します。

臨床現場で、実際に再生医療を運用するかどうかは別の問題だと思えます。その意味が示される。研究は早く進めたい。価格も下げられることには期待しています。早期の判断は難しいとは思いますが、気軽に再生医療が受けられるようにしたいです。

いろいろな見えかた

ワークショップの最後、参加者のみなさんには、「今日 1 日いろんな話を聞いて、再生医療に関する研究をこのまま進めるべきかどうか、なぜそう思ったのかを書いてください」とお願いしました。ここに掲載しているのは、参加者のみなさん 1 人ひとりのメカネをとおして書いてきた「再生医療のあるべき未来像」です。

まずは法の整備を

議論の場をもっと!

技術に心が追いつかない...